

シリーズ 市町村合併5

Q 合併により少子化の状況はどうなりますか。

A 市町村合併の目的の一つとして、全国的に問題となっている「少子・高齢化への対応」があります。

松前町の少子化率（人口に占める15歳未満の割合）は、昭和60年21・9%、平成12年15・0%となっており、平成22年には15・9%となる見込みです。

伊予市、砥部町も昭和60年には20%を超えていましたが、平成12年には15%となっており、松前町と同様減

少の傾向を示しています。

市町村別に見てみると、平成12年の国勢調査の結果では、中山町が11・5%と最も低く、続いて双海町12・2%と、少子化が進んでいます。

広田村は、昭和60年から平成12年まで約15%で大きな変化は見られません。

愛媛県の平均が14・7%であり、中山町、双海町以外はほぼ同じ割合になっています。

今後は、この少子化の進展により地域の活性化の低下が懸念され、各市町村は少子化への対応に迫られています。

しかし、松前町は0歳児保育の実施、子育て支援センターの設置などを行い、乳幼児をもつ母親の支援などを積極的に実施し、県内トップの取組みをしています。

Q 各市町村の産業別就業構造の状況はどのようになっていますか。

A 市町村別に人口に占める就業者の割合を見ると、松前町が49・1%と一番低くなっており、続いて伊予市50・7%、砥部町51・4%となっています。反対

に就業者の割合が高いのは、広田村62・4%、次に中山町の57・3%となっています。

この就業者の割合は、15歳以上の労働者数の割合であり、高齢者の多い市町村ほど高い割合になっています。

各市町村の産業別就業数の状況は、松前町、伊予市、砥部町は第3次産業（サービス業、卸・小売業など）が半数以上を占め、続いて第2次産業（製造業、建設業など）、第1次産業（農業、漁業など）

となっており、第1次産業の占める割合は1割程度となっています。

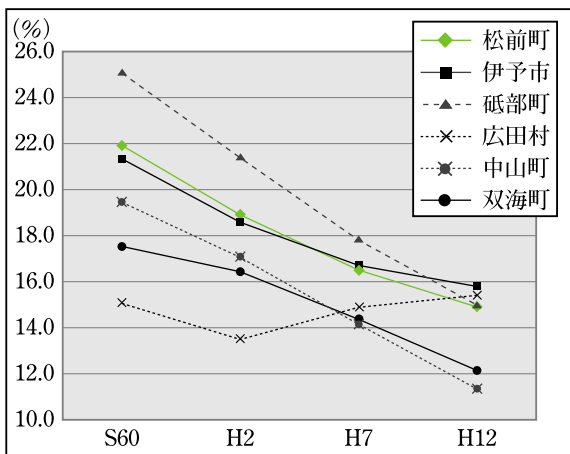
中山町、双海町は各産業の割合がほぼ同数となっています。広田村は第1次産業が一番多く、続いて第3次産業、第2次産業の順になっています。

●市町村別少子化率の推移●

(単位：%)

市町村名	60年	2年	7年	12年
松前町	21.9	18.9	16.6	15.0
伊予市	21.5	18.6	16.7	15.8
砥部町	25.3	21.6	17.8	15.1
広田村	15.2	13.6	15.2	15.5
中山町	19.4	17.2	14.2	11.5
双海町	17.6	16.4	14.4	12.2
基本パターン (伊予郡市)	21.9	19.0	16.6	15.0
参考パターン (松前町・伊予市・双海町)	21.3	18.5	16.4	15.2

(国勢調査)

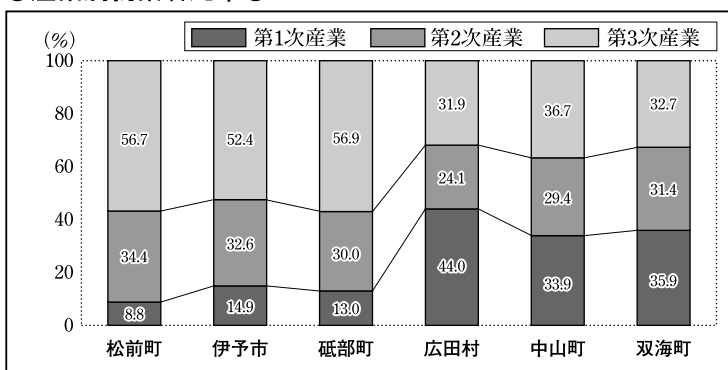


●産業別就業者数● (15歳以上の就業者数) (単位：人)

	人口	就業者数	第1次産業	第2次産業	第3次産業
松前町	30,106	14,792	1,300	5,094	8,393
伊予市	30,270	15,362	2,291	5,010	8,054
砥部町	20,493	10,542	1,372	3,162	5,998
広田村	1,212	756	333	182	241
中山町	4,901	2,806	950	825	1,029
双海町	5,893	3,211	1,154	1,007	1,050
基本パターン (伊予郡市)	92,875	47,469	7,400	15,280	24,765
参考パターン (松前町・伊予市・双海町)	66,269	33,365	4,745	11,111	17,497

(資料：平成7年国勢調査)

●産業別就業者比率●



愛媛県の示した合併のパターンで見ると、基本パターン（伊予郡・市）、参考パターン（松前町・伊予市・双海町）とも、人口の多い松前町、伊予市、砥部町とほぼ同じ割合の就業構造となります。

お問合せ先
役場企画財政課企画係

☎ 985-4101
☎ 985-4148

E-mail:kikaku@town.masaki.
chime.jp

http://www.town.masaki.
chime.jp/